

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 4月の栽培活動から広がる体験／社会福祉法人慈育会 若葉台保育園（福島県）

4月の花壇は、どんな草花を楽しむことができますか？  
野草を楽しむことができる環境や場面はありますか？  
今回は、進級当初の4月、1か月間の園庭の草花や植栽との関わりに注目している4歳児の事例をご紹介します。園庭の自然を楽しむ散歩から花びらを使った遊びへ、そして、栽培活動で出会った小さな生き物との関わりを通して、さらに栽培物の生長を期待し興味をもって観察する姿へと、子どもたちの姿が伝わってきます。



### ● キャベツ、ブロッコリーを植えて出会った生き物／4歳児

#### ✦ 春の草花への興味（4月上旬）

持ち歩ける小さな図鑑を手に、園庭で花や生き物を見付けることを楽しむ。「マーガレットがあったね」などと、花の名前を言ったり、桜やチューリップなどの花びらを空き箱に入れて集めたり、落ちていた花びらで色水遊びや、叩き染めをして楽しむ。



#### ✦ キャベツ、ブロッコリー、ロケットキャベツの苗を植える（4月中旬）

保育者が苗を植える話をする、「やりたい」「やったことある」と喜ぶ。家庭で経験している子どもの話を聞き、今までの栽培活動を思い出し、植え方を話し合う。何の苗なのかを考え「イチゴだよ。だって葉っぱがギザギザじゃん」「えー、キュウリかも」「トマト!」「カボチャの匂い」などと想像し、生長を楽しみに世話をする。



#### ✦ 「キャベツ、ブロッコリー、ロケットキャベツだ」と気付く（4月下旬）

ダンゴムシ、アリ、カタツムリなどの生き物に興味に向く。室内で飼うために図鑑で飼い方を調べているうちに、4月に植えた植物は、キャベツ、ブロッコリー、ロケットキャベツであると気付く。雨の日に散歩をしていると、キャベツの葉っぱに雨粒がたくさん付いていて、子どもたちはいつも異なる状況を見付けてはしゃいだ。そのため、この後、雨の日にも植物の様子を見に行くようになった。



## ✦ 考察

---

新年度当初の4月。そのわずか1か月の間にも、子どもたちは植物への興味を深め、自ら多くの気づきに繋がる自然体験を重ねている。園庭の環境、天候、持ち歩いて疑問を調べる図鑑などは、重要な環境になっている。保育者が意図して子どもたちの生活に栽培活動を取り入れることは、子どもたちの探究心を育む体験に繋がっている。

## ✦ その後の様子

---

### ● 6月

---

キャベツの葉の裏に、大量の青虫を発見する。保育室で飼い、観察や世話を続ける。

### ● 7月

---

飼育箱の青虫に卵がたくさん付いている異変に気付く。「卵のようなものは、何か？」図鑑で調べ、保護者の協力も得て「寄生蜂」だと知る。多くの青虫は、サナギになり、モンシロチョウになった。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」